



仁照寺花園だより

船子山 仁照寺
住職 江角弘道
電話:72-8379
携帯:090 4801 9676

新春を寿ぎ 皆々様の
ご安泰をお祈り申し上げます。

旧年中はなにかとお世話になりありがとうございました。本年も相変わりにませず
何卒よろしくお願い致します。 合掌

令和二年 元旦

本年の主要行事予定

- ・春の彼岸法要、定期巡教（3月中旬頃）
- ・大本山妙心寺団体参拝（7月4日～5日）
- ・山門大施餓鬼法要・檀信徒総会（8月3日）
- ・秋の彼岸法要（9月中旬頃）
- ・秋季研修会：出雲國神仏霊場巡拝（11月頃）

詳細につきましては別途ご案内いたします。

◇新年写経会◇

毎年1月2日午前10時から開催
しています。

ご希望の方は是非ご参加ください。

大本山妙心寺団体参拝(令和元年7月6～7日)

今年度は14名で参拝しました。初日に諷経を行い、2日目は明石海峡を渡って
徳島へ行きました。阿波踊り会館で本場の踊りを鑑賞し、体験もしました。





これからも多くの皆さまのご参加をお待ち致しております。

山門大施餓鬼法要・檀信徒総会(令和元年8月3日)

36名の皆さまに出席していただき、法要ののち総会を行いました。その後、大正琴の伴奏で童謡を合唱しました。また新しい試みとして、詩吟(令和の典拠となった万葉集の梅の花の詩)を合吟しました。



出雲國神仏霊場巡拝(令和元年11月10日)

今年度より新たに「出雲國神仏霊場」をお参りすることになりました。

初回は13名の皆さんと、松江～美保関方面の佐太神社、月照寺、賣布神社、華蔵寺、美保神社にお参りしました。





昨年の住職の活動

昨年は下記のような事柄を発信しました。

- 1月27日(月) 山陰中央新報 **ふれあいページ** にエッセイ 「冥土の土産」
- 3月3日(日) 山陰中央新報 **ふれあいページ** にエッセイ 「包むものと包まれるもの」
- 4月14日(日) 山陰中央新報 **ふれあいページ** にエッセイ 「リンゴと明けの明星」
- 5月26日(日) 山陰中央新報 **ふれあいページ** にエッセイ 「夕日を眺める」
- 5月30日(木) 島根県立大学出雲キャンパスで招致講義
- 6月7日(金) 松江西高等学校で「命の授業」
- 6月13日(木) 松江市立第一中学校で「命の授業」
- 6月25日(火) 島根大学社会人講座で講演
- 7月7日(日) 山陰中央新報 **ふれあいページ** にエッセイ 「役に立つ命と立たない命」
- 7月9日(火) 出雲市立斐川西中学校で「命の授業」
- 7月13日(土) 光明学園相模原高校(神奈川県)で講演 「いのちへのまなざし」
- 8月18日(日) 山陰中央新報 **ふれあいページ** にエッセイ 「我々はどこからきたのか」
- 9月29日(日) 山陰中央新報 **ふれあいページ** にエッセイ 「観音様と”こだま”する」
- 10月8日(火) 島根県立三刀屋高等学校で「命の授業」
- 10月27日(日) 山陰西教区花園会青壮年部研修会で講演 「いのちを見つめて」
- 11月10日(日) 山陰中央新報 **ふれあいページ** にエッセイ 「有為の奥山 今日越えて」
- 11月11日(月) 松江地方行政関係者 人権・同和問題研修会で講演
- 11月18日(月) わらべのうち保育園の園児たちに坐禅とお話しをしました
- 11月25日(月) 中国電力島根原子力発電所で講演
- 12月22日(日) 山陰中央新報 **ふれあいページ** にエッセイ 「ぼけ防止と健康のために」



読者ふれあいページ

「こちら虹」は楽しかったこと、ことをつづってください。「お助け
るアイデアやお知恵をお寄せくださ
電話番号を明記ください。

ぼけ防止と健康のために

出雲市斐川町・仁照寺住職

江角 弘道

近い将来、65歳以上の高
齢になると5人に1人が、
認知症を発症するらしい。
がんを発症することも怖い
が、それよりも怖いとひそ
かに思っているのが認知症
です。

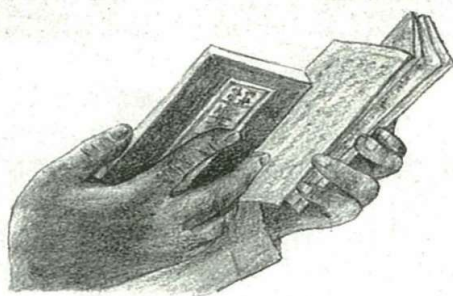
最近、103歳で亡くな
られた檀家さん(女性)の
葬式をしました。喪主(長
男)様は、あいさつの中で、
「母は、つれあいを40年前
に亡くした後、生け花を楽
しみ、絵を描き、書道を楽
しみ、友達と茶会を楽しみ、
また自身史を出版したりし
て、死ぬまでぼけないで暮
らしました」と話されまし
た。

四十九日忌法要の時に、
さらに詳しく聴くと、書と
生け花は作品が高い評価を
得ていたとのことでした。

混迷・生きる

教えの庭から

た、82歳から画家の娘さん
より絵を習い、米寿で母娘
の絵画展を開き、それを記
念して母娘画集を出版され
ていました。100歳を過
ぎても、自筆で年賀状を1
50枚程度出し、亡くなる



挿絵 MASAKI

直前まで日記を毎日書いて
おられたとのことでした。
何か生き方のお手本を示さ
れたような思いでした。

死にたいです。次の詩は、私たちがへのエールです。くじけないで(柴田トヨ) ねえ 不幸だなんて 溜息をつかないで 陽射しやそよ風は えこひいきしない 私には「教養」と「教育」 私 辛いことが あった けど 生きていてよかった ヨウドクは、お経のことで、ドクは読むことと働かせ、人や自然をじっくりと観察し、自分が今生きていかに思いめぐらし、そこに息子や亡き父母をはじめ、多くの人やもの「おかげ」で生きられていることに目覚めておられるからだと思います。 『100歳になっても脳を元気に動かす習慣術』(多湖輝著)を読むと、「教養」と「教育」のある人は「ぼけ防止と健康のために」も私は「教養」「教育」さ

いやし ●●● 安らぎ ●●● ころ ●●●